

私がなぜ現在の科目を選んだか

「糖尿病・内分泌代謝内科」

信州大学医学部内科学第四教室
鈴木 雄一朗

私が糖尿病・内分泌代謝内科に興味を持ったのは、学生時代に糖尿病とその合併症を勉強した時だったと記憶しています。糖尿病の合併症としましては、細小血管障害として神経障害、糖尿病網膜症、糖尿病性腎症が、大血管障害としましては脳血管障害、心筋梗塞、末梢動脈疾患などが挙げられます。先生方の中には学生時代に「し・め・じ」などの語呂合わせで勉強された方もおられることと思います。いずれも進行するとADLを大幅に損ねる疾患であり、最悪の場合は死に至る疾患も含まれております。

私が医師を志したのは、父親を、定期的に検査を受けていたにも関わらず癌が発見されたときには手遅れで亡くしたという経験からでしたので、以前から疾患の進行を防ぐことに興味を抱いておりました。糖尿病

私がなぜ現在の科目を選んだか

「形成外科」

信州大学医学部形成再建外科学教室
永井 史緒

医学部4年、系統講義が始まった頃、どうしよう、と思っていました。内科、外科の授業をきいても、自分がそれをできるようには思えなかったのです。その頃、服飾に興味があり、自分で服を作ったり、刺繍したり、ビーズで小物を作ったりしていました。医者になるのをやめて服飾の世界に行きたい、とテストを受けながら思いました。そうは言っても、服飾の世界で一流となれる自信がある訳もなく、せっかく入学した大学を退学してまで進路変更するような勇気もありませんでした。そんな時、形成外科の授業を受けました。細かくは覚えていませんが、口唇裂や腫瘍切除後の再建だったのでしょうか、症例写真をみて、これは服を作るのと似てるかも!?と。面白そう!と興味を湧いたというより、これなら私も医者としてどうにか生きていけるかも、とホッとしたというのが正直な気持ちだっ

の進行を食事・運動療法および内服薬や注射薬の調整で防ぐことができるという糖尿病内科の予防医学的な面は非常に魅力を感じました。

出身地も出身大学も異なる私が信州大学医学部附属病院を選んだ理由としましては、見学に来て医局の雰囲気非常によかったことと、先生方が丁寧に診察をしておられたことが挙げられます。また、長寿の県である長野県で糖尿病診療に携わって、地域の健康寿命の増進に役立てることにやりがいを感じております。

私の出身大学が位置する東北地方は、寒い塩分を非常に多く摂取することから、高血圧症になり、それによる脳血管疾患や心血管疾患の罹患率が高く、平均寿命も東北6県は全国の中でも低い順位となっております。同じように寒い長野県の長寿の秘訣について食生活や運動習慣などの面から機会があれば調べてみたいと考えております。

このように、臨床と研究の両面で非常にやりがいのある診療科ですので、私自身今後も研鑽を積んでいきたいと思っております。

(東北大平26年卒)

たと思います。香川の夏の湿気と暑さにやられ、実家のある長野県に帰ることにした6年の時、信大の形成外科に見学に行きました。下顎骨骨切、頭頸部再建、眼瞼下垂、様々な手術をみましました。ちょうど自分達から初期臨床研修必修化が始まったので、先輩のように6年生で形成外科医になるとは決められませんでした。形成外科になるために必要な知識を他科で2年間勉強しよう!と決め、形成外科にはまわらず研修を修了しました。

形成外科医として働くようになり、手術だけでは治療できない、現時点では完治することができない疾患が沢山あるという現実も知りました。しかし、形成外科の手術の多くは正解がなく、術者の技術や知識の引き出しが多ければ選択肢も広がり、患者の希望や状況からより適したオーダーメイドの治療をすることが可能です。自分が努力して、より緻密で正確な手術ができればより患者の術後のQOLが改善します。自分の理想と現実の差は大きいですが、日々考えて努力し続けることでその差を埋めていきたいと思っております。

(香川医科大平16年卒)